

《研究報告》

高齢者ケアにおける看護職と介護職の「協働」概念

溝江 弓恵¹⁾, 八島 妙子²⁾

¹⁾ 桐山女学園大学看護学部看護学科, ²⁾ 愛知医科大学看護学部看護学科

要 旨

【目的】 高齢者ケアにおいて看護職と介護職がどのように協働しているのかその特徴を整理し、「高齢者ケアにおける看護職と介護職の協働」を定義することである。【方法】 本研究は文献研究である。保健医療福祉領域で「協働」の概念整理もしくは定義をしている文献10件より、「協働」と「連携」の違いの検討、「協働」の共通の要素・性質の抽出、連携との関連から「協働」概念の検討を行った。高齢者ケアを対象とした看護職と介護職の協働の実態を述べている文献20件より、看護職と介護職の協働の特徴を整理し、その特徴を踏まえた定義の検討を行った。【結果】 「協働」も「連携」も協力関係が共通した要件であり、その上で「協働」には、連携関係にある複数の主体にとって、能動的、協調性、自己主張性などのポジティブな姿勢、態度が求められる。先行文献の「協働」の定義より「共通の目的・目標」「専門性・能力」「意見の尊重・協力・協調性」「意思決定や行動の関係性・プロセス」といった共通の要素・性質が抽出された。高齢者ケアにおける看護職と介護職の協働の特徴は、1) 基本的な人間関係を基盤とした職種間の関係である、2) ケアプロセスが「協働」のプロセスであり、成長し続けるプロセスである、が挙げられた。【結論】 高齢者ケアにおける看護職と介護職の協働とは、「高齢者ケアにおいて看護職と介護職が、共通の目的を持ち、互いの専門性や能力を認め、能動的に協力し合いながら、ケアの方法を決めて実施している関係を築くプロセス」である。

キーワード：協働, 看護職, 介護職, 高齢者ケア